



★ SSTでの学びを実生活につなげるために

SSTの時間には、生き生きと練習に取り組む子どもの姿が見られた一方で、その後の生活でSSTが活かされていないと感じることはありませんか？一度練習したからといって、すぐに行動できるわけではありません。でも、子どもの心の中には「やってみよう」という意欲があったり、勇気が出せなくて行動できなかつたりすることもあるのです。

★ 先生の「大丈夫だよ」が子どもの背中を押す

コミュニケーションの力を育てるためには、相手との関係性が大切です。だからこそ、「困っていても大丈夫」「失敗しても怒られない」という安心感の中で、何度も試行錯誤しながらコミュニケーションのスキルを高めていけるようにしていきましょう。そのためには、先生との信頼関係が欠かせません。大好きな先生に見守られ、「大丈夫だよ」「がんばっているね」と言葉をかけられた子どもは、自らSSTでの学びを生かして行動しようとしていくのです。



★ できない理由を一緒に考える

SSTでトレーニングしたのに、なぜ行動することができないのか。子どもにとって、学びを生かして行動することは、簡単なことではありません。そこで、先生と一緒に「どうすれば、できるか」を考えてみましょう。「恥ずかしくて言い出せない」のであれば、先生が「どうしたの？」と声をかけてきっかけをつくってあげる。「場面が変わる

と、分からなくなる」のであれば、隣にいて小声で教えてあげ、本人ができたらほめる。できない理由が明らかになると、子どもへの支援を具体的に考え、自信をつけてあげることができます。

★ 学びを生かすことができる場をつくり、ほめる

SST で学んだ後の数日間にフォローアップ期間を設け、少しでも行動できたら、ほめてあげることも大切です。あえて SST で学んだことを生かせる場を意図的につくり「行動しようとしたら」ほめてはどうでしょうか？ そうすることで、トレーニングした学びを生かそうと動きだし、実生活につながっていくきっかけとなるからです。何よりも、大好きな先生にほめられることで、自信になり、「もっと使いたい」「もっと上手になりたい」とさらに行動しようとする意欲が高まります。

★ 学校の教職員で「まなざし」を共有する

SST は教室だけではなく、子どもが生活するすべての場所や場面で使えてこそ意味があります。実は、SST を必要とする子ども達には、言しやすい先生と言にくい先生がいることがあります。「どうせ怒られるから言わない」と感じているとすれば、とて



も残念なことです。学校にいる教職員が同じまなざしで子どもを温かく見守り、行動しようとする姿をほめることがとても大切です。安心感に包まれた学校の雰囲気、SST での学びを実生活につなげることに繋がります。

